

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第562号 令和8年3月・4月



『羽村のお寺さん』 松原 貞一

目 次

	頁		頁
1) 保健所だより	西多摩保健所 … 2	8) 学術講演会予定	学術部 … 15
2) 専門医に学ぶ	田浦新一 … 6	9) 理事会報告	広報部 … 16
3) 糖尿病医療連携検討会からの 今月のメッセージ	大島 淳 … 8	10) 会員通知・医師会の動き	事務局 … 19
4) 糖尿病医療連携に関する歯科からの提言 西多摩歯科医師会会長 … 11		11) 2026年度診療報酬請求書提出日一覧表	事務局 … 24
5) 西多摩医師会新年賀詞交歓会	総務部 … 12	12) 表紙のことば	松原貞一 … 25
6) 広報だより	菊池 孝 … 13	13) あとがき	神應知道 … 25
7) 連載企画	小高哲郎 … 14	14) お知らせ	事務局 … 26

保健所だより

東京都薬用植物園に行ってみませんか

今回は、東京都薬用植物園（以下「都薬用植物園」）について御紹介します。

都薬用植物園は、東京都小平市（最寄り駅：東大和駅から徒歩2分）にあり、敷地面積は31,398㎡で東京ドームの約3分の2に相当します。その植物園では実に753種類もの薬用植物を栽培しており、都内唯一の大麻・ケシの栽培施設でもあります。

都薬用植物園は昭和21年4月に医薬品原料の確保を目的として設置され、当時の名称は「東京都小平薬用植物栽培場」でした。昭和32年4月に「東京都薬用植物園」と改称し、同時にケシの栽培も開始しております。以降も展示室の設置や組織再編等を経て現在に至ります。

都薬用植物園には、主に「薬用植物の栽培育成・収集」「調査研究」「試験検査」「薬用植物・生薬等に関する知識の普及啓発」の4つの役割があります。令和6年度の試験検査実績は3,500件を超えており（大麻の種子の鑑定が多い）、警察等関係者からの大麻やケシに関する相談も年間150件程度に上ります。一般開放もされており、同年度の年間来場者は約10万人になります。



都薬用植物園の入り口周辺風景

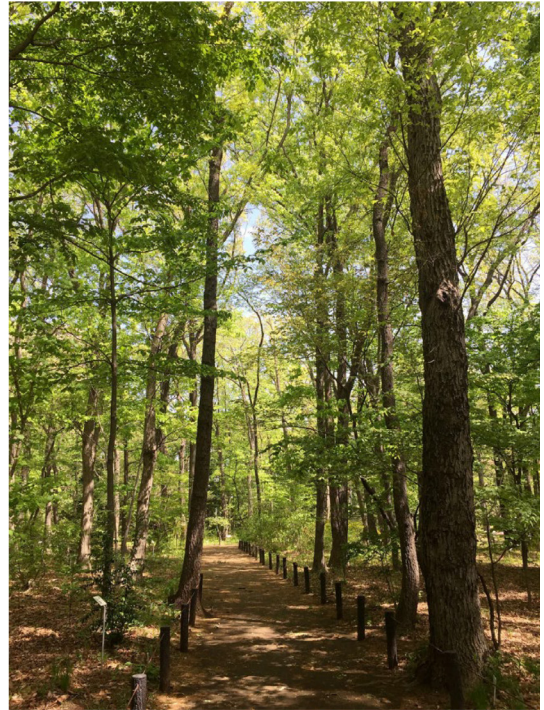


ケシ（ソムニフェルム種）：写真は麻薬の原料となる「アヘン」を収穫することに特化した一貫種。都薬用植物園では観賞用の品種も栽培しており、一面に咲く姿は圧巻です！

4月になると園内に植えられた桜が咲き誇り、桜目当てで来園される方もいらっしゃいます（宴会は禁止です）。そして、4月下旬から5月上旬に開花期を迎えるケシが見頃となり、一見の価値があります。

また、園内にはガイドボランティア（愛称：花咲案内人）も配置されており、来園された方々に、見頃の花のガイドや園内案内の御手伝いを行っています。花咲案内人は、園内で黄色い腕章と名札をつけています。見かけましたら気軽に声をおかけください。その他にも、自主観察会や作品展等のイベントも実施しております。

桜やケシの季節以外にも6月下旬から7月上旬には、月経痛や生理不順などに使用される通導散（ツウドウサン）に配合される紅花（ペニバナ）「生薬名：コウカ」や、夏から初秋にかけてはビールの原料になるホップが花を咲かせます。ビールを飲むとトイレが近くなるのは、アルコールの利尿作用に、ホップに含まれるポリフェノール成分が持つ利尿作用（フロセミドなどと比較するとマイルドです）も関与していると言われます。そして、本格的に夏になると大麻が最盛期を迎えます。立入禁止区域で栽培されていますが、品種によっては3メートルを超えるものもあります（大麻草なのですが木に近いです）。



秋になるころには葛（クズ）の花が咲きますが、この葛の生薬名が葛根湯でおなじみの「カッコン」です。冬にはピンクリスチンやピンブラスチンの原料である日々草（ニチニチソウ）を温室内で鑑賞することもできるなど、1年を通して薬用植物を鑑賞することができます。

晴天の散策道（林地）気持ちいいですよ！

生薬以外にも林地もあり（西多摩では珍しくありませんが）、気持ちよい散策が楽しめるのも魅力のひとつです。是非、一度足をお運びください。

写真提供：東京都薬用植物園

保健師活動コラム Vol.10 ～「保健師」の人材育成～

西多摩保健所では、西多摩圏域（※）の保健・医療・福祉に係る様々な専門職を対象に、人材育成の取組を行っています。

医療の高度専門化や多様化する地域の課題等に対応するには、様々な機関で活躍する専門職の資質の向上を図ることが非常に重要です。

本日は、私が担当する行政保健師の人材育成について、保健所の取組状況や業務を通して感じていることを紹介します。

・はじめに

医師会の先生方の中には、健康診査や連絡調整等で、行政保健師と関わる機会がある方がいらっしゃると思いますが、改めて「保健師とは何をする職種か」御存知でしょうか。

保健師助産師看護師法によると、「保健師」とは「厚生労働省の免許を受けて、保健師の名称を用いて、保健指導に従事することを業とする者をいう。」とされています。

当圏域では、令和7年4月時点で、保健所及び市町村に約130名の保健師が所属しており、母子保健、成人保健、障害福祉、高齢福祉等の様々な分野で、住民に対する相談支援、関係機関の調整、健康診査等の保健事業及び地域の健康課題を解決するための施策の立案等を行っています。

・「保健師」の人材育成

保健所では、行政保健師のスキルアップを目的に、保健所及び市町村の保健師を対象に年9回ほど研修や連絡会を実施しています。研修等は、新任期・中堅期・管理期の対象者別に「対人支援技術の習得」、「地域診断に基づくPDCAサイクルの実施」、「人材育成・災害対策の推進」等の様々なテーマで行っています。

各回、10名から20名程度の行政保健師が参加し、各テーマについて理解を深めるとともに、保健師同士で交流することを通して圏域で顔の見える連携を図る貴重な機会となっています。



研修の様子（新任期向け）



連絡会の様子（管理期向け）

・人材育成を通して感じること

私は、令和7年4月に西多摩保健所に着任し、中堅期保健師の一人として、行政保健師の人材育成に携わっています。その中で、何より感じているのは、「圏域全体で保健師の人材育成に取り組むこと」の大切さです。

市町村の保健師をみると、人口規模が小さい自治体では数名程度、人口規模が大きい自治体でも25名程度と決して人数が多くありません。さらに、保健師は庁内で分散配置されており、同じ部署内に保健師が数名のみのこともあります。そのため、市町村では試行錯誤して、保健師の人材育成に取り組んでいますが、実務を通じた育成が中心となり、体系的な育成や庁内横断的な育成が難しいというのが実情です。このような状況の中、保健所が圏域単位で行政保健師の人材育成を考え、推進する重要性を改めて痛感しています。

一方、圏域単位で行政保健師の人材育成を推進するためには、保健所のみで取り組むのではなく、市町村との協働が欠かせません。保健所では、中堅期保健師向け研修の運営に市町村の管理期保健師に御参加いただき、保健事業の企画や評価について一緒に検討する、研修の学びを日々の業務を通してより深められるよう連絡会等で研修内容を共有するなど、自治体や職位を超えて、互いに学び合い、協働して人材育成に取り組めるよう工夫しています。

今後も、同じ医療職として西多摩医師会の先生方とも連携し、住民に質の高い保健サービスを提供することによって、地域の誰もが健康に安心して暮らすことができるよう、引き続き、圏域全体で行政保健師の人材育成に取り組んでいきます。

(※) 青梅市、福生市、羽村市、あきる野市、瑞穂町、日の出町、檜原村、奥多摩町の8市町村で構成される。

市町村連携課 企画調整担当

専門医に学ぶ 第177回

IVR-CT 導入を契機とした IVR の拡充

青梅市立総合病院 放射線科 田浦 新一

IVR (Interventional Radiology: 画像下治療) は、X線透視やCTなどの画像を用いて体内を可視化しながら行う低侵襲治療です。外科的手術に比べ身体への負担が少なく、近年その重要性はさらに高まっています。

当院では新病院への移転に伴い、2023年10月にIVR-CTを導入しました。IVR-CTは、血管造影装置とCTを同一室で運用できるシステムです。X線透視だけでなく、CTを用いることにより、より高精度な画像診断が可能となり、安全性や確実性を高めたIVRの実施が可能となりました。

さらに、院内体制を整備し、エコーを積極的に活用できる環境が整ったことも、IVR拡充の大きな要因となりました。これまで当院では、エコーガイド下でのIVR手技は限定的でしたが、現在はX線透視、エコー、IVR-CTを症例に応じて使い分け、あるいは組み合わせることで、より安全なアプローチが可能となっています。

導入当初は、これまで当院で行ってきたIVR(体表付近のドレナージ、経皮的肺生検、TACE、緊急止血など)を中心に運用しつつ、物品・人員配置、他科との連携を段階的に整備しました。その後、IVR-CTやエコーを活かした手技の幅が徐々に広がり、症例の難易度とバリエーションが増えていきました。

以下に例を挙げます。

■ 深部膿瘍のドレナージ (図1, 2)、深部病変に対する生検

穿刺のターゲットが深部に存在した場合、CT単独では安全な穿刺が困難な場合が多いです。エコーガイド下で血管を避けながら穿刺し、必要に応じてIVR-CTを用いて針先位置を確認することで、安全かつ確実な手技が可能になりました。これにより、従来は外科的対応になりやすかった症例でも、院内で完結できる場面が増えました。

■ 術前門脈塞栓術、門脈ステント留置、ラジオ波焼灼療法 (図3)

これらの手技も実施可能となりました。特にラジオ波焼灼療法の件数は年間20件を超え、低侵襲治療として重要な位置を占めています。

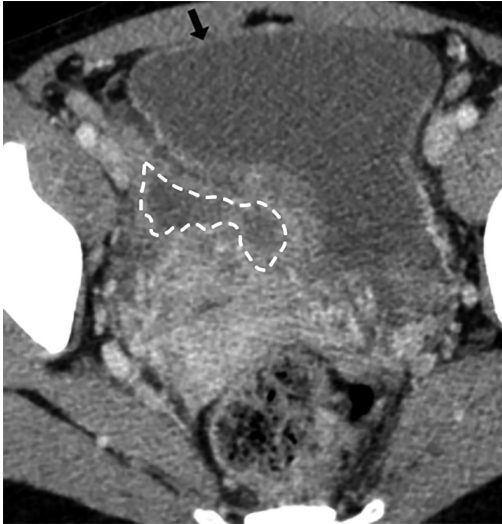
■ 緩和的IVR (内臓神経ブロック、経皮経食道胃管留置術 (PTEG) など)

がん性疼痛に対する内臓神経ブロック、経鼻胃管困難例や長期経管栄養に対するPTEGなど、QOL改善を目的としたIVRも重要な柱となっており、これらの手技も導入することができました。地域病院では「今いる場所で苦痛を減らす」ことの価値が大きく、緩和領域におけるIVRの役割は今後さらに広がると考えています。

こうした取り組みの結果、当院の IVR 件数は、従来の年間約 90 件前後から、直近では年間約 250 件前後へと増加しました。件数の増加自体が目的ではありませんが、地域で対応できる医療の幅が広がったことを示す一つの指標と捉えています。

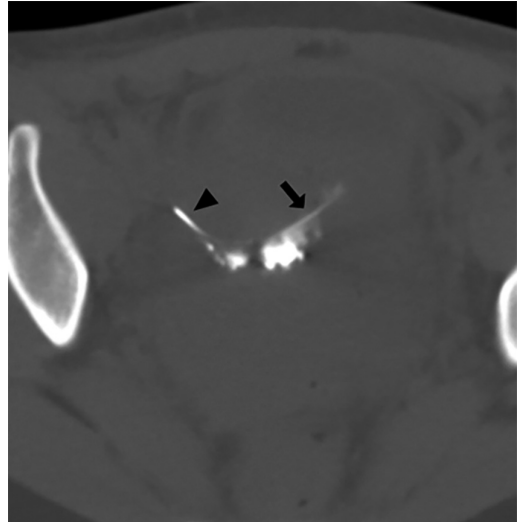
今後も安全性を最優先に、画像を最大限活用した低侵襲治療を通じて、地域医療に貢献していきたいと考えています。

図 1 (造影 CT)



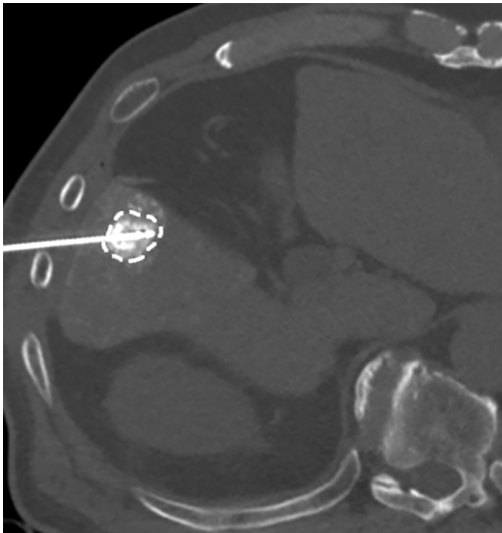
- ・帝王切開後の骨盤内膿瘍。
- ・膀胱 (矢印) 背側に、膿瘍腔 (点線) を認める。こちらに対して、経皮的ドレナージ術を企図した。

図 2 (IVR-CT を用いた単純 CT)



- ・エコーガイド下で21G針を穿刺し、造影剤やガイドワイヤーを用いて、膿瘍腔を確認。
- ・IVR-CTを用いて、目的の腔内に針が留置されていることを確認した。(矢印: 穿刺針、矢頭: ガイドワイヤー)

図 3 (IVR-CT を用いた単純 CT)



- ・肝細胞癌に対するラジオ波焼灼療法。
- ・肝細胞癌に対してTACEを施行し、腫瘍をマーキングした (点線)。
- ・X線透視を用いて焼灼針を穿刺した後、IVR-CTを用いて針の位置を確認した。

糖尿病医療連携検討会からの今月のメッセージ

西多摩地域糖尿病医療連携検討会

平素より当検討会事業にご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。当検討会では2018年度より会員の皆様に、医師会報を通して糖尿病診療に役立つヒントを得て頂ければと願い「糖尿病診療を再考する症例」をテーマに【糖尿病専門医による症例提示】を企画しております。今回は、市立青梅総合医療センター 内分泌糖尿病内科 大島淳先生に症例提示をお願い致しました。皆様の診療の一助となりましたら幸いに存じます。

【症例提示】

市立青梅総合医療センター 内分泌糖尿病内科 大島 淳

【症例】 80歳代、男性

【主訴】 低カルシウム血症

【既往歴】 前立腺癌

【現病歴】 前立腺癌に対し前立腺全摘を行い、その後前医にてホルモン療法を続けていた。X年の定期採血時に手のしびれがあり、採血検査で補正カルシウム値 5.9mg/dL と著明低値を認めた。しかし近日中に転居予定であり、前医での継続治療は困難であったため、アルファカルシドールを処方し、当院紹介受診となった。当院受診時は補正カルシウム値 7.4mg/dL まで改善を認めており、テタニー症状は認めなかった。

【身体所見】

E4V5M6、HT163.0cm、BW 50kg

眼瞼結膜貧血無し、眼球結膜黄染なし、頸部リンパ節腫大なし、甲状腺腫大なし、胸腹部に特記すべき異常所見なし、下腿浮腫無し、腰痛あり

【生活歴】 喫煙なし、飲酒なし

【画像所見】

骨シンチグラフィ) 肋骨・肋軟骨移行部、椎体終板や椎間関節周囲、足関節などの大関節に集積亢進を認める

骨密度) 脊椎 64%、大腿骨 51%

【血液検査】

WBC 5340/ μ L、Hb 12.8g/dL、Plt 32.0 万/ μ L、Alb 3.6g/dL、AST 27IU/L、ALT 20IU/L、ALP 322IU/L、 γ -GTP 12IU/L、BUN 16.4mg/dL、Cre 0.74mg/dL、UA5.0mg/dL、Na 143mEq/L、K 4.2mEq/L、Cl 109mEq/L、Ca 7.0mg/dL、iP3.2mg/dL、随時血糖 94mg/dL、HbA1c 5.7%、ACTH 10.3pg/mL、コルチゾール 7.4 μ g/dL、TSH 2.112 μ IU/mL、FT3 2.43pg/mL、FT4 0.96ng/dL、iPTH 523pg/mL、25-OH ビタミン D < 3.0ng/mL、1-25(OH)₂ ビタミン D 70pg/mL、TRACP-5b 884mU/dL、BAP 934 μ g/L

尿中クレアチニン 158.21mg/dL、尿中カルシウム 1.9mg/dL、尿中カルシウム 12mg/g・Cre

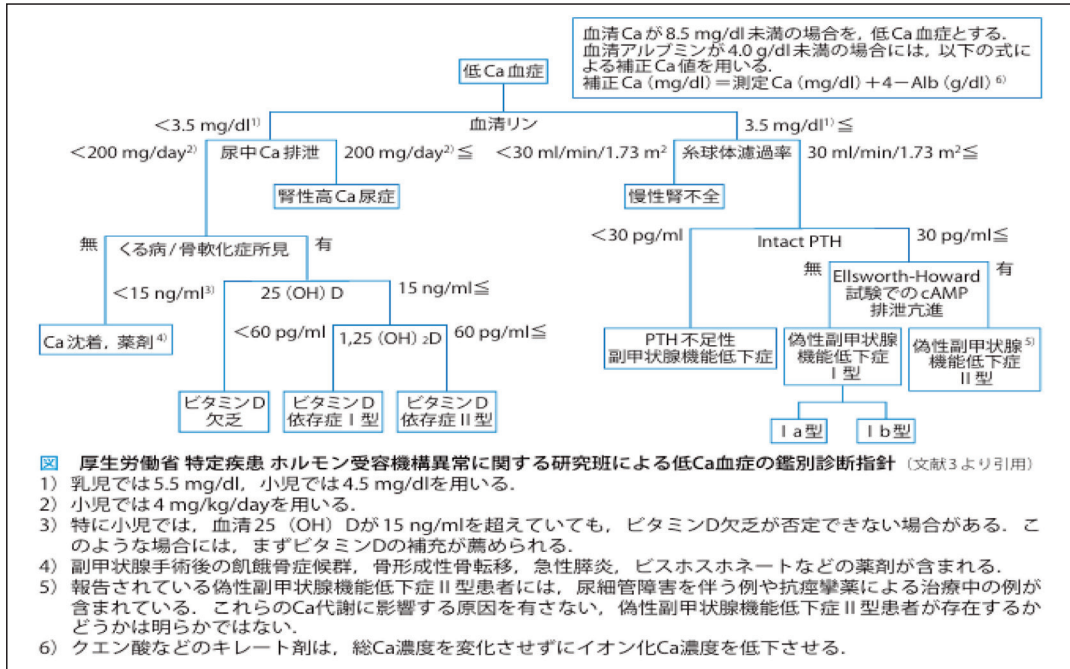
【problem list】

1 ビタミン D 欠乏性低カルシウム血症

2 骨粗鬆症

【受診後の経過】

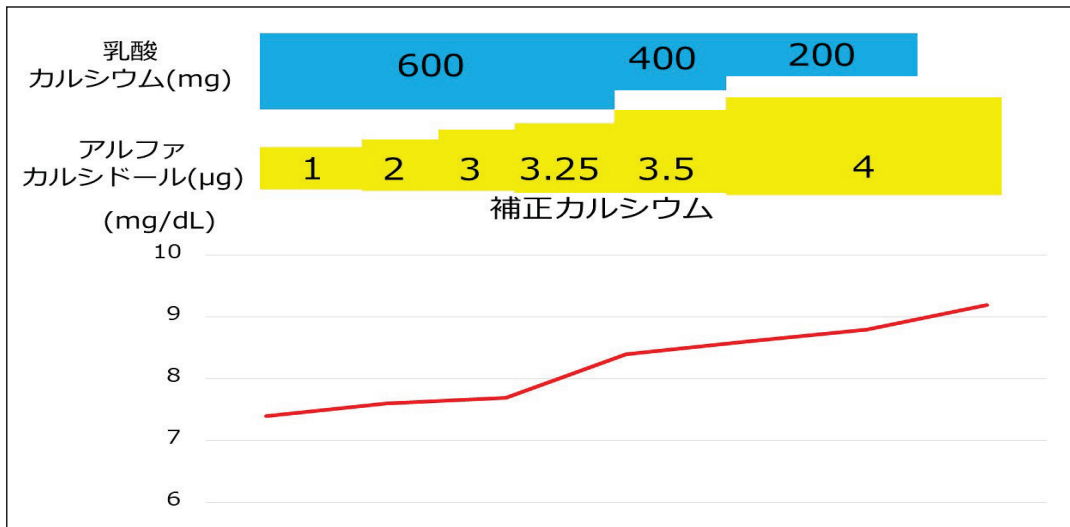
低カルシウム血症の鑑別フローチャートを用いて、原因検索を行った。尿中カルシウム排泄は随時尿の g・Cre 換算で代用し、明らかな骨折などは認めなかったものの、低リン血症や BAP 高値、骨密度低下、骨シンチで肋骨などに多発集積を認めたため骨軟化症所見ありと判断した。なお、腰痛は認めるものの、骨痛が原因の腰痛かははっきりしなかった。そして、25-OH ビタミン D が感度未滿と著明低値であったことから、ビタミン D 欠乏性低カルシウム血症と診断した。



(日本内分泌学会編: 内分代謝科専門医研修ガイドブック, 診断と治療社, 東京, 2018, 107)

ビタミンD欠乏となった原因を調べるため食生活を聴取したところ、最近主食は玄米食のみで魚やきのこなどはほとんど食べておらず、食事からのビタミンD摂取量が不足していることが分かった。また、食事内容は毎日大きく変わらず、同じような食事を続けており、外に出る機会も少なかったことが判明した。そのため、ビタミンDが多く含まれる食事などを積極的に摂取し、ある程度の時間は外に出て日光に当たるよう指導した。

また、内服薬として処方されていたアルファカルシドールを漸増し、乳酸カルシウムを追加したところカルシウム値は徐々に上昇したため用量調整を行い、補正カルシウム値9.2mg/dLまで軽快を認めた。



【ビタミンD不足・欠乏】

ビタミンDは食事摂取と皮膚における紫外線による合成で供給される。ビタミンDは骨やミネラル代謝に必須であり、ビタミンDの作用低下が起きると骨折リスクの上昇など様々な影響を及ぼす。現在ビタミンD作用不足の原因として最も多い原因は体内ビタミンDの不足・欠乏であると考えられている。

その背景として、ビタミンDの摂取不足・合成低下が考えられている。ビタミンDを摂取するには魚やきのこなどが推奨されるが、本症例のように偏食傾向がある、またはアレルギーなどで摂取が出来ない場合は食事からのビタミンD摂取が不足することになる。また、ビタミンD合成にはある程度の紫外線が必要だが、紫外線対策が広まってきたことにより不足しがちになっていると考えられる。これはなるべく日に当たらないような行動や商品が広まってきたことと無関係ではないと思われる。例えば、日焼け止めクリームはビタミンD産生を大きく低下させることが知られており、紫外線の害がいわれ、対策が始まった1990年頃からくる病の発生が増加している。

なお、本症例の様に高齢者は日光に反応してビタミンDを合成する力が低下している傾向があり、より多くの日光に当たらないといけない場合もある点に注意が必要である。

ビタミンDが充足しているか否かは25-OHビタミンDの測定による。世界各国からビタミンD不足・欠乏に対するガイドラインが報告されているが、本邦では2016年まで25-OHビタミンDが保険収載されていなかった。現在は日本内分泌学会・日本骨代謝学会よりビタミンD不足・欠乏の判定指針が示されており、25-OHビタミンDが30ng/mL以上を充足、20以上30ng/mL未満を不足、20ng/mL未満を欠乏と判定している。なお、以前より保険収載されている1-25(OH)₂ビタミンDはビタミンD欠乏下でもPTH分泌の亢進やiP低値により1 α 水酸化酵素の活性が刺激され、高値となることも稀ではなく、半減期が1日未満と短いためビタミンDの充足度を測る指標としては適切とは言えない。本症例でも25-OHビタミンDは感度未満と著明低値であったが、1-25(OH)₂ビタミンDはやや高値であった。

ビタミンDは骨代謝に関連し、骨粗鬆症の治療にも影響を及ぼす。骨粗鬆症は骨の脆弱性が増大し、骨折リスクが上昇する疾患である。日本人の推定患者数は1500万人を超えるとされており、現在様々な治療薬が発売されているが、ビタミンD欠乏は骨粗鬆症治療を阻害するとの報告がある。骨粗鬆症に多く使用される薬剤としてビスフォスフォネートがあるが、25-OHビタミンD 20-32ng/mLを境にビスフォスフォネートならびにSERMの骨密度増加の低下や治療中の骨折の増加が報告されている。また、ビタミンD欠乏自体が骨折リスク増加に関与するとの報告も複数存在しており、ビタミンD不足は特に高齢者のADLに大きく関与する可能性がある。

他にも、ビタミンD欠乏は様々な疾患のリスクとなることが報告されている。ビタミンD不足は糖尿病や心血管イベントの発症リスクをあげ、COVID-19の重症化因子ともされており、逆にビタミンD摂取は認知症の予防に繋がる可能性が指摘されている。しかし、日本で行われた調査では都民の約98%がビタミンD不足または欠乏であるとの報告もあり、年齢が低いほどビタミンD不足の割合が大きくなったとされている。今後同様の患者が増加する可能性は否定できず、超高齢化社会で骨折リスクなども上昇するかもしれない。今後は通常の診療の中で、ビタミンD不足に対する積極的な介入も必要になるとと思われる。

糖尿病医療連携に関する歯科からの提言

一般社団法人東京都西多摩歯科医師会会長 麻沼 恵

西多摩歯科医師会として、西多摩医師会の皆様の日々の医療活動には心から敬意を表します。私たちは、地域の住民の健康を支えるためには、医科と歯科の連携が重要であると考えています。特に、糖尿病患者の治療において、歯科医療との連携がもたらすメリットは計り知れません。ここで貴重な紙面をお借りしまして糖尿病医療連携の必要性とその実現手段について提言させていただきます。

1. 糖尿病と口腔健康の関係

糖尿病は、全身性の疾患であり、口腔内の健康にも多大な影響を及ぼします。糖尿病の患者は、歯周病やその他の口腔疾患にかかりやすく、その悪化が糖尿病の管理を一層困難にすることがあります。具体的には、歯周病患者は、血糖値のコントロールが難しくなる傾向があり、そのために糖尿病の合併症も増加することが示されています。したがって、口腔の健康を保つことは、糖尿病患者にとって重要な治療の一環であると考えられます。

2. 連携の重要性

糖尿病の治療には、内科医による適切な血糖管理と、歯科医師による口腔健康の維持が不可欠です。これには、初期の段階からの歯科的介入が重要です。例えば、糖尿病診断時に歯科医への紹介を行うことや、定期的な口腔検査を通じて早期の歯周病サインを発見することができます。内科医と歯科医の連携を強化することで、患者の糖尿病治療全体の質が向上することが期待できます。

3. 具体的な連携について

連携を強化するためには、次のような情報共有システムの構築が必要と考えます。

糖尿病患者に関する情報を共有できるプラットフォームを整備し、内科医と歯科医が患者の健康状態を把握できるようにします。具体的には糖尿病手帳の活用が期待されます。

また、かかりつけ医からかかりつけ歯科医への情報提供と、口腔ケアの管理を依頼していただくことで、より良い医療連携が実現できると考えております。この連携を強化するために、糖尿病診断時や定期的な診察の際に、歯科医への紹介を行い、早期の口腔健康管理を促進することが重要となります。また、歯科においても歯周病の患者さんでかかりつけ医をもたない患者さんには医科への受診を促すなどの取り組みを通じて、医科から歯科、歯科から医科へと円滑に紹介できれば、患者の全身管理と口腔管理の質を同時に高めることができると確信しております。

4. 結びに

我々西多摩歯科医師会は、糖尿病医療の分野において通院患者が直面する多くの課題に対して、内科医とのさらなる連携が必要不可欠であると考えています。今後も、相互に協力しあい、患者の健康を第一に考えた医療を提供していきましょう。共に手を取り合い、より良い医療環境を目指して邁進していくことをお願い申し上げます。

令和8年 西多摩医師会新年賀詞交歓会

総務部



西多摩医師会新年賀詞交歓会が令和8年1月17日(土)に羽村市プリモホールゆとろぎにて開催されました。御来賓の方として衆議院議員の先生、東京都議会議員の先生方、西多摩8市町村の首長様、西多摩保健所長様、青梅・福生・秋川・奥多摩の消防署長様、五日市警察署長様、更に西多摩歯科医師会長様、西多摩薬剤師会長様、東京都柔道整復師会西多摩支部長様、顧問弁護士・顧問公認会計士の先生方など、あわせて22名の御臨席を賜りました(一部代理の方も含まれます)。

冒頭の進藤幸雄会長の御挨拶では、人口減少と高齢化が進む中、要配慮者を支えるために、皆で協力しながら地域包括ケアシステムの更なる構築を進める必要があるとのお話がありました。また西多摩の地域特性を踏まえた災害医療対策、特に亜急性期～慢性期の関連死を防ぐ平時からの体制作りの重要性を訴えられ、御出席の皆様と気持ちを共有致したところです。

続いて御来賓の御挨拶を東京都議会議員 田村利光先生、森村隆行先生、清水やすこ先生、市町村長を代表して福生市長 加藤育男様からいただいた後、御来賓の方お一人お一人の御紹介をさせていただきました。そして、西多摩保健所長 渡部裕之先生による乾杯の御発声で歓談のお時間の開始となりました。西多摩医療圏を支えてくださっている多様な職種の皆様との意見交換や新しい出会いがこかしこで行われ、これからの西多摩の明るい未来に希望が持てる様子でした。

会を見事に彩って下さったのが、国立音楽大学演奏科の皆様による弦楽四重奏の調べです。御出席の皆様の会話に寄り添うような穏やかで優しい旋律に、時には拍手も起こりながら、素晴らしい時間が流れていきます。

遅れて御到着された衆議院議員 井上信治先生から御挨拶をいただきましたが、多くの機知に富む御発言に会場の盛り上がりも最高潮となりました。

宴もたけなわとなり、恒例の抽選会が始まりました。この時ばかりは、皆様御自身の番号札を握り締め、当選番号の発表を固唾を飲んで見守っていらっしゃいました。賞品プレゼンターの進藤晃副会長の手から10名の皆様に、リカバリーウェア、ホットプレート、山崎シングルモルトウイスキー12年、ブルゴーニュワイン、また高級卵かけご飯セットなどの豪華賞品が手渡されました(素晴らしい賞品の数々は医師会理事 高橋有美先生が選定してくださいました)。各界の著名人いらっしゃる皆様ですが、賞品をいただく時の少し興奮されている御様子からは、更に親近感を感じてしまったのは私だけではなかったかと思えます。

楽しい時間程あつという間に過ぎてしまうもの、お名残り惜しくはありますが、閉会の御挨拶を古川朋靖副会長からいただきました。西多摩で広く行われている「7つ締め」の由縁を御紹介下さり、皆で勉強した後に「3回、3回、1回」の見事な手締めで西多摩医療圏の明るい未来を会場一体となって祈念してお開きとなりました。

この度は、大変お忙しい中で御出席いただいた医師会員の先生方、誠にありがとうございました。ただ、御出席者の人数が年々減ってきている事実がございます。この会は医師会行事の中でも、多種多様な業種の皆様と交流できる唯一無二の機会と申し上げても過言ではないかと思えます。皆様の日頃の御診療の幅を広げていただき、更に御発展いただくきっかけとなる素晴らしい場と考えますので、より一層多くの先生方の御参加をいただきたく、何卒よろしくごお願い申し上げます。

(文責：総務部長 井上大輔)

広報だより

AI革命の光と影：半導体不足「長期化」の衝撃

きくち耳鼻咽喉科クリニック 菊池 孝

はじめに

2026年現在、私たちは「第4次産業革命」の真っ只中にいます。18世紀の蒸気機関から始まった技術革新の歩みを振り返ると、現代がいかに大きな転換点にあるかが分かります。

1. 第1次（18世紀末～）：蒸気機関による「機械化」
2. 第2次（20世紀初頭～）：石油と電力による「分業と大量生産」
3. 第3次（1970年代～）：コンピュータによる「自動化」
4. 第4次（現在）：AI(Artificial Intelligence：人工知能)とIoT(Internet of Things)による「自律化・知能化」

この知能革命を支える物理的な基盤が「半導体」です。現在その需給はかつてないほど逼迫しています。特定のAI用チップの納期は1年を超えるとも言われ、その確保の成否が国家や企業の競争力を左右するとも考えられています。

第1章：AIインフラへの「一極集中」と構造的ボトルネック

現在起きているのは、単なるモノ不足ではなく、製造リソースの奪い合いです。AIの学習・推論に不可欠なGPU（画像処理装置）や、超高速メモリであるHBM（広帯域メモリ）の製造に世界中の工場（ファウンドリ）が占有されています。この「AI最優先」の状況により、PCやスマホ、家電に使われる汎用的なチップの生産ラインが削られており、市場には「AI向けは比較的潤沢だが、それ以外が足りない」という深刻な歪みが生じています。

第2章：医療業界への影響

この構造的欠乏は、医療現場を直撃すると考えられます。厚生労働省が推進する医療DXにおいて、電子カルテのクラウド化やネットワーク構築が必須となっていますが、それらを支えるサーバーや通信機器の納期が延長するでしょう。すでに日本医師会も報告している通り、半導体不足による「HPKIカード（医師資格証明書）」の発行遅延は現在も続いています。HPKIセカンド電子証明書で凌いでいる現状です。病院のシステム更新や新規導入は、物理的な部品不足という制約によって「足止め」を食らうことになることが予想されます。

第3章：身近なデバイスへの影響

私たちの手元にあるパソコンやスマートフォンにも、深刻な影響が出ています。

1. 価格の急騰：AIサーバーへの供給が優先されることで、メモリ（DRAM/NAND）の価格は前年比で60%以上上昇しています。これにより、2026年中にスマホやPCの製品価格が最大20%値上がりするとの予測も出ています。
2. オンデバイスAIの強制：端末自体でAIを動かす「Copilot + PC」などの普及により、要求スペック（メモリ容量等）が底上げされ、以前のような安価なエントリーモデルが市場から姿を消しつつあります。

第4章：半導体不足はいつまで続くのか？

当初、2026年中の解消が期待されていた半導体不足ですが、最新の業界予測では「2027年以降への長期化」が確実視されています。大手半導体企業のCEOらは、AIインフラへの投資が予想を遙かに上回るペースで続いていることから、「メモリや主要チップの供給不足は2027年まで継続する」と警鐘を鳴らしています。世界各地で建設中の新工場がフル稼働し、供給が需要を上回るまでには、まだ少なくとも1～2年の歳月が必要な状況です。

まとめ

2026年現在の半導体不足は、人類が「知性のデジタル化」へ舵を切ったことで生じた歴史的な供給の歪みです。今後、半導体不足が原因となって生じる様々な機器不足と価格の高騰は、私たちが次世代の社会インフラを手に入れるための、「産みの苦しみ」となりそうです。半導体の供給不足が解消され、真の安定が訪れるであろう2027年以降に向けて、私たちはこの「不足」を前提とした長期的な戦略を立てる必要があります。

連載企画

「世紀の落球」から学ぶこと

あきるの杜きずなクリニック 小高 哲郎

広報委員に就任してから、4回目の連載企画を執筆することになりました。1回目の執筆時から、小児外科関連の記事を書いていましたが、今回は「大舞台での失敗」からの立ち直りについて、綴ってみました。

皆さんは、「世紀の落球」というと、どの場面を思い出しますか？多くの方にとって、2008年の北京五輪でのGG佐藤さんのエラーではないかと思えます。当時、西武ライオンズで活躍中のGG佐藤さんが北京五輪の日本代表に選ばれたのは納得できても、GG佐藤さんのヒーローインタビューでの「キモチ〜」というセリフは大学病院の小児外科で過酷な勤務をしていた私には「ふざけている」としか思えず、あまりいい印象は持っていませんでした。

北京五輪は、星野監督を監督に迎えて、金メダル獲得のために選りすぐりのプロ野球選手を集めたドリームチームでした。闘将として知られた星野監督のチームの気合を全面に出して戦う姿は、難病と闘う子供たちを支える医療スタッフにとっても勇気を与えてくれる存在で、私も心から星野ジャパンの優勝を願っていました。

GG佐藤さんのエラーは、準決勝の韓国戦で起こりました。西武ライオンズではライトを守っていたGG佐藤さんにとってレフト守備の不安から出たエラーでした。2対0でリードした4回裏の場面でレフト前ヒットをスルーし、更に2対4と逆転された8回裏でのレフトフライを捕球できず敗戦となりました。更に翌日の3位決定戦の米国戦でも3回にレフトフライをエラーして敗戦を決定づけてしまいました。試合後、GG佐藤さんは「死にたい」と家族に漏らしていたとのことでした。当時、テレビで試合を見ていた私も、「GG佐藤さんは、もう立ち直れないかもしれない」なんて心配したものでした。

当時、大学病院の中堅医師だった私は、ほとんどの小児手術の術者を任されていました。手術だけでなく、治療法の見えない難病患者の方針決定も担当することが多く、ゆっくり眠れない日

が続いていました。治療経過も必ずしもいい結果ばかりではなく、それが自分の判断ミスのように感じることもありました。そのため、G G佐藤さんの失敗は私にも重なるものがありました。全世界から注目される五輪とは舞台は異なるものの、子供の将来をかけた手術室は、私にはほぼ同等の大舞台であり、自分の判断ミスは、「世紀の落球」に当たるもののように思っていました。

やがて西多摩に移り、北京五輪の記憶も薄れた2012年に、G G佐藤さんがイタリアにわたって野球を続けている様子がテレビで放送され、少しほっとしたのを覚えています。彼は北京五輪後、西武ライオンズで2年間、イタリアのボローニャで1年間プレーした後に、ロッテで再度活躍して、2014年にプロ野球を引退したとのことでした。

昨年10月に、娘の学校の学園祭で、G G佐藤さんの講演がありました。講演は、「失敗がない人生には、成功もない」というテーマでした。高校・大学では補欠選手だったG G佐藤さんが「妄想」する力、すなわち「自分の可能性を否定しないで、自分が目指す理想とする姿を想像すること」により、プロ野球選手という夢をつかんだ、という内容でした。後半では、北京五輪の話にも触れ、死を意識した末に「前に進めない自分を許し、立ち止まる自分を受け入れる」ことにより立ち直り、西武ライオンズで最高打率をマークしたとのこと。更に故野村克也さんが亡くなる10日前に「エラーはしたが、名を残したお前の勝ちや」と言われたことを挙げ、「プラス思考をすることにより悪い過去をいい過去に変えることができる」と締めくくっていました。

医師の判断ミスは、取返しのつかない結果にもつながることから、G G佐藤さんの言うように、プラス思考だけで必ずしも明るいものに変えることはできないでしょう。ただ、将来の患者のためになるのであれば、医師にとってもプラス思考が必要なのではないか。それが、「世紀の落球」から学んだことでした。

◇学術講演会予定

令和 8.2.13

開催日	開始～終了 時間	会 場	単 位 数	CC	集会名称・演題	講師（役職・氏名）
3/12 (木)	19:00 ～ 20:20	Web 配信 又は、 西多摩 医師会館	1.0	12 10	学術講演会 <講演1> 「MCIの早期診断を目指して」 <講演2> 「抗Aβ抗体薬の治療～継続投与 を含めて」	座長：市立青梅総合医療センター こころの診療科部長 岡崎 光俊 先生 災害医療センター 脳神経内科 松林泰毅 先生 座長：市立青梅総合医療センター 脳神経内科部長 田尾 修 先生 立川病院 脳神経内科部長 認知症疾患医療センター長 服部 英典 先生
3/16 (月)	19:30 ～ 20:15	市立青梅 総合医療 センター	0.5	80	学術講演会 「青梅市で取り組むSTOP！心不 全」 演題「心不全地域連携の現状と 未来のためにできること」	座長：市立青梅総合医療センター 循環器内科 部長 小野 裕一 先生 演者：野本医院 院長 野本 英嗣 先生
4/21 (火)	19:30 ～ 20:30	Web 配信 又は、 西多摩 医師会館			学術講演会 「認知症を支える地域医療セミ ナー」 <講演1> 「認知症認定看護師からみた認知 症患者のケア（仮）」 <講演2> 「クリニックにおける外来患者の BPSDへの対応（仮）」	座長：(医財) 利定会 進藤医院 院長 進藤 幸雄 先生 (医財) 利定会 進藤医院 看護小規模 多機能型居宅介護 藤の華 認知症 看護認定看護師 中原一之進 先生 座長：(医社) 仁成会 高木病院 院長 南 明宏 先生 かなや内科クリニック 院長 金谷 潔史 先生

理事会報告

★ Information

12月定例理事会

令和7年12月23日(火)

西多摩医師会館

(出席者：進藤(幸)・古川・進藤(晃)・井上・三ツ汐・湯田・野口・神應・松本・松村・高橋・近藤・宮城)

報告事項

1 都医地区医師会長連絡協議会報告

資料により、12/19に開催された標記協議会の内容・都医からの伝達事項等について報告がされた。

2 各部報告

総務部

・資料により、2/7西多摩地区医療懇話会の開催案内が紹介され、役員の出席が依頼された。

地域医療部

・12/15に開催された地区医師会災害担当理事連絡会について、資料により、会議概要が報告、説明がされた。

・12/16に開催された地区医師会地域医療担当理事連絡会について、資料により「かかりつけ医機能報告制度」に関して報告、説明がされた。

学術部

・2/19パネルディスカッションの開催が案内され、その概要(問題出題形式による)が説明された。

3 地区会報告

○羽村市 ・12/12忘年会開催

4 その他報告

特になし

報告承認事項

1 入退会会員・会員異動について

資料により、準会員1名の退会が報告された。

2 令和8年度福生市立小中学校医(内科)の推薦について(依頼)

標記推薦については、前々回理事会で承認されたが、1名医師の辞退により、資料の医師の推薦が承認された。

3 令和8年度日の出町立小・中学校眼科検診医の推薦の変更について

標記学校検診医の推薦については、前回の理事会で承認をされたが、一部小・中学校の担当医の変更が生じたため資料の通り、医師の推薦(変更)が承認された。

協 議 事 項

特になし

そ の 他

1 総務部・経理部からの依頼

「2026年度の事業計画及び収支予算」作成に係る事業担当理事の意向・検討と報告について参考資料として今年度の事業計画等が配布され、2026年度事業計画（案）の検討・策定について各役員に依頼、また、新規事業・変更・廃止等及び予算に変更等ある場合は1/16までに事務局に連絡することとされた。

1月定例理事会

令和8年1月27日(火)

西多摩医師会館

(出席者：進藤（幸）・古川・進藤（晃）・井上・三ツ汐・湯田・野口・神應・松本・松村・高橋・近藤・宮城)

報 告 事 項

1 都医地区医師会長連絡協議会報告

資料により、1/16に開催された標記協議会の内容・都医からの伝達事項等について報告がされた。

その他会長報告

2/7開催の「西多摩地区医療懇話会」での医師会情報提供内容について説明がされた。

2 各部報告

総務部

・1/17に開催された「新年賀詞交歓会」の状況等について報告された。

地域医療部

・1/22に開催された「フレイルサポート医地域連携支援事業」地区医師会担当理事連絡会について、資料により、会議概要が報告、説明がされた。

学術部

・2/19に開催されるパネルディスカッションについて
事前問題に対する回答の協力依頼がされた。

3 地区会報告

- 青梅市 ・1/16新年会開催
- 福生市 ・1/20新年会開催 ・2/14開催予定の福生市医師会講演会について紹介
- あきる野市 ・1/16役員会開催 ・1/19定例会開催
- ・医療介護連携の推進に関してアンケート計画紹介

4 その他報告

特になし

報告承認事項

1 入退会会員・会員異動について

資料により、正会員1名の入会申請が紹介・報告され承認された。
また、準会員1名の退会、及び、1名の異動届が報告された。

2 糖尿病性腎症重症化予防事業への取組にかかる協力依頼について

資料により、標記に係る行政からの協力依頼についての内容が紹介され、依頼への協力が承認された。

3 令和8年度羽村市立学校学校医の推薦について（変更依頼）

標記学校医推薦について、10/28理事会にて報告承認されたが、1名の変更依頼が報告され、推薦が承認された。

4 令和8年度青梅市立小・中学校学校医の推薦について（依頼）

標記依頼について、地区会にて調整が済んでいることから、資料にある医師を推薦することが承認された。

5 令和8年度市立保育園嘱託医（内科医）の推薦について（依頼）

標記依頼について、地区会にて調整が済んでいることから、資料にある医師を推薦することが承認された。

6 2026年度「診療報酬請求書等」の提出日について

資料により、標記提出日（案）が示され承認された。

7 研修会管理システムにおける認定くかかりつけ医機能報告制度にかかる研修申請者の承認について 【MAMIS】

資料により、標記内容が説明され、MAMISでの認定申請者一覧くかかりつけ医機能報告制度にかかる研修申請者の承認を事務局で実行することが承認された。

協議事項

1 「2026年度 事業計画（案）」について

資料（2026年度事業計画案）により今年度との相違点について説明され、示された事業計画の通り可決承認された。

2月定例理事会

令和8年2月10日（火）

西多摩医師会館

（出席者：進藤（幸）・古川・進藤（晃）・井上・三ツ汐・湯田・野口・神應・松本・松村・高橋・近藤・宮城）

報告事項

1 各部報告

総務部

・資料により、2/7に開催された西多摩地区医療懇話会について紹介された。

学術部

・2/19開催予定の令和7年度パネルディスカッションへの参加依頼がされた。

2 地区会報告

特になし

3 その他報告

特になし

報告承認事項

1 入退会会員・会員異動について

資料により、準会員1名の退会が報告された。

2 令和8年度町立小・中学校の学校医の推薦について（依頼）

令和8年度町立小・中学校の学校眼科医の推薦について（依頼）

令和8年度町立小・中学校の学校耳鼻科医の推薦について（依頼）

上記3件の依頼（瑞穂町）については地区会にて調整済、依頼通り資料にある医師を推薦することが承認された。

協議事項

特になし

会員通知

- 会報1-2月号
- 宿日直表（青梅・福生・阿伎留）（西多摩医師会 HP 会員ページ、会員メニュー内（会員専用）に掲載）
- 学術講演会（3/12、3/16）
- 産業医研修会（三鷹市医師会 3/7）
- ” （大森医師会 4/18）
- 健康スポーツ医実地研修会（東京医科大学医師会 3/7）
- 2026年度診療報酬請求書等提出日一覧表
- MAMIS 退会手続きに関するお知らせ（定款施行細則改正について）
- 医師会館門扉修繕工事のお知らせ
- 高齢者インフルエンザ予防接種実施報告兼請求書の受付終了について
- 日医かかりつけ医機能研修制度に係る令和7年度修了申請について
- 第22回西多摩パネルディスカッション2026開催案内ならびに解答アンケートへ

の協力依頼（2/19）

- 令和7年度第2回地域包括ケアシステム推進講座開催案内（3/3）
- 東京都の実施する「糖尿病地域連携の登録医療機関制度」の御案内
- 情報提供（薬剤処方に関する注意喚起）
- 福生市医師会より 学術講演会開催案内（2/14）
- 西多摩歯科医師会より 公開講演会開催案内（2/21）
- 青梅成木台病院（認知症疾患医療センター）より 令和7年度東京都かかりつけ医研修開催案内（3/1）
- 市立青梅総合医療センターより 外来感染対策向上加算地域連携合同カンファレンスの開催について（2/10）
- ” 第21回市立青梅総合医療センター地域医療連携懇話会開催案内（2/18）
- 公立福生病院より 感染対策向上加算・地域連携合同カンファレンス及び合同訓練開催について（1/26）

- 公立阿伎留医療センターより 感染対策向上加算・地域連携共同カンファレンス開催案内 (1/20)
- 武蔵野赤十字病院より 東京都脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業 多摩地区対象「医療従事者研修会」のご案内 (2/14)
- ” 東京都脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業 脳卒中「市民公開講座～脳卒中の予防～」のご案内 (2/21)
- 「がん治療連携指導料」の施設基準届出に係る連携保険医療機関の新規追加及び届出内容の変更等について (令和8年4月1日算定)
- 東京都医師会主催「医業継承セミナー」の開催について
- 令和7年度東京都後発医薬品安心使用促進に係る医療関係者向け講演会の開催について
- 「オンライン診療指針」の遵守を確認するためのチェックリスト等について
- 介護情報基盤の運用開始に伴う主治医意見書にかかる通知改正等について
- ペイシエント・ハラスメント防止に関する普及啓発事業「信頼と協働が育む東京の医療」川柳コンクールの実施について (通知)
- 令和7年度ぜん息治療講演会における講演動画および資料の掲載について
- 麻しん (はしか) の発生について (第2報)
- 令和7年青森県東方沖を震源とする地震に伴う災害の被災者に係る定期検査等の取扱いについて
- 令和7年度第2回主治医研修事業 (介護保険制度・障害者総合支援法) 研修会の開催について
- 「令和6年国民健康・栄養調査結果の概要」の公表・周知について
- 令和7年度厚生労働省委託事業「人生の最終段階における医療・ケア体制整備事業」における「本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会」(第4回) 及び「本人の意向を尊重した意思決定のための指導者研修会」の実施について
- 令和7年度地域小児医療研修事業 (第1回小児救急研修会) の実施について
- 令和8年度介護報酬改定率について
- 失業保険の給付額等を増やすことができると謳う申請サポートについて (注意喚起)
- 令和7年度【第5回】児童虐待対応研修の開催について
- 今冬の急性呼吸器感染症 (ARI) の感染拡大に備えた注意喚起について
- 食中毒の発生について
- 医療費助成の受給者証及び診察券のマイナンバーカードへの一体化に関する補助金の令和7年度の申請受付について
- 降積雪期における防災態勢の強化等について
- 令和7年度東京都 ACP 推進事業「アドバンス・ケア・プランニング取組推進研修」の開催について
- オンライン資格確認の導入のための医療機関・薬局への財政支援の申請期限延長について
- 受動喫煙対策に係る普及啓発のポスターの送付について
- 令和8年度診療報酬改定率について
- 冬季の省エネルギーの取組について (周知依頼)
- 令和7年度東京都難聴児相談支援センター講習会 (医師・言語聴覚士・助産師対象) の周知について (依頼)
- 国で備蓄している抗インフルエンザウイルス薬の一時的使用等について (周知依頼)
- 「はたちの献血」キャンペーン及び「春季」キャンペーンの実施について
- 第3回フレイルサポート医研修会の開催について
- 令和8年度 産業医学基本講座受講のご案内について
- 令和6年度介護報酬改定を踏まえた高齢者施設等と協力医療機関との連携状況について
- 医療DXの取組状況に係る調査について
- 令和7年度医療DXに係る出張講習会 (第10回から第12回) 開催案内の送付について
- オンライン資格確認等システムのメンテナ

- ンスに伴う資格確認端末の再起動等の案内について
- 電子処方箋管理サービスにおける重複投薬等チェックを踏まえた対応について
 - 令和7年度東京都医師会産業医前期研修会の開催について
 - 麻しん（はしか）の発生について
 - 令和7年度地域小児医療研修事業（第2回小児救急研修会）の実施について
 - 東京都生産性向上・職場環境等整備支援事業補助金の交付申請受付期間の延長について（通知）
 - 令和7年度かかりつけ医機能情報の定期報告について
 - 「医療扶助のオンライン資格確認導入に係る医療機関等助成事業」（再周知依頼）について
 - 令和7年度医療機能情報の定期報告について
 - 医療DXのイベントについて
 - 令和8年度診療報酬改定に係る諮問書及び議論の整理の送付並びにパブリックコメント募集へのご投稿について（依頼）
 - トリパンブルー染色液が原因と推測される真菌による眼内炎発症事例について
 - 医療事故情報収集等事業「医療安全情報 No. 229」の提供について
 - 内閣感染症危機管理統括庁主催シンポジウムについて
 - 急性弛緩性麻痺（AFP）の情報提供について
 - 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について（一部改正）
 - 「子ども虐待対応の手引き」の全部改正について
 - 美容所等におけるアートメイク施術について
 - オンライン申請の対象となる施設基準の追加について
 - 第2回日本 CBRNE 学会／NBCR 対策推進機構共同主催学術大会 一過去の事例を忘れず、多職種連携で CBRNE に備える！一周知依頼について
 - 令和7年度第3回医療連携講演会のご案内について
 - 運転免許制度の運用に関する協力依頼について
 - HPV ワクチン接種に係る医療機関向け研修会の開催について
 - 麻しん（はしか）の発生について
 - 令和7年度東京都在宅療養推進シンポジウム「健康なうちから始めるフレイル予防」の開催について
 - 「令和7年度中皮腫の診断精度向上のための講習会」のご案内
 - 「第3回在宅医療シンポジウム」の開催について
 - 食中毒の発生について
 - 令和7年度医療介護等人材スキルアップ講習会の開催について
 - 令和7年度「都民アレルギー講演会」の開催について
 - 麻しん（はしか）の発生について
 - 「運動・スポーツにおける安全対策の評価・改善のためのガイドライン」の周知及び活用について（ご依頼）
 - 医療事故情報収集等事業「医療安全情報 No. 230」の提供について
 - 令和7年度 医療機関等における賃上げ・物価上昇に対する支援事業の実施について
 - 食中毒の発生について
 - 令和7年度 世界結核デー記念行事講演会及び映画「家族のこころ」上映の周知（依頼）について
 - 令和8年度 東京都医師会主催「日本医師会生涯教育講座」の開催スケジュールについて
 - 麻しん（はしか）患者の来訪について
 - 麻しん（はしか）の発生について
 - 特別上映イベント「2026 オーケストラの夕べ」に関する周知のご依頼
 - 「抗微生物薬適正使用の手引き 第四版」の周知について
 - 令和8年度東京都医師会診療報酬改定講習会のご案内
 - 令和8年度診療報酬改定を見すえたベースアップ評価料の届出について
 - 地区医師会地域医療担当事務連絡会（かかりつけ医機能報告制度）動画公開のご案内

医 師 会 の 動 き

	令和8年2月13日現在	
医療機関数	189	病院
		27
		医院・診療所
		162
会 員 数	485	正会員
		205
		準会員
		280

会 議

1月8日	西多摩医療提供体制懇話会
17日	令和8年新年賀詞交歓会
21日	在宅医療推進強化事業会議 (西多摩在宅安心サポート事業)
27日	定例理事会
29日	訪問診療調整委員会
2月7日	西多摩地区医療懇話会
10日	定例理事会
12日	令和7年度第4回西多摩地域糖尿病医療連携検討会
16日	広報部会 (会報編集)
24日	定例理事会
25日	在宅医療推進強化事業会議 (西多摩在宅安心サポート事業)

講演会・その他

1月7日	医療保険委員会
15日	「糖尿病合併症を理解するための勉強会 (眼科専門医)」(Web配信) 演題:「糖尿病の眼合併症について」 演者:かごしま眼科 院長 鹿兒島 武志 先生
15日	学術講演会 (Web、会場聴講) 『ともに歩むパーキンソン病の治療～多職種連携と薬物療法で支える笑顔あふれる日常～』 Opening Remarks: 市立青梅総合医療センター 脳神経内科 部長 田尾 修 先生 【Key Lecture】【座長】立川病院 脳神経内科 部長 服部 英典 先生 演題:「パーキンソン病の多職種連携～パーキンソン病療養指導士にできること～」 演者: 福岡大学 病院看護部 看護師 山本 澄子先生 【Special Lecture】【座長】埼玉医科大学 脳神経内科 客員教授 教職員・学生健康推進センター セン

	ター長・特任教授 山元 敏正 先生 演題:「パーキンソン病パンデミックのいま～チーム医療と薬物療法～」 演者: 慶應義塾大学医学部 神経内科 准教授 関 守信 先生		
22日	西多摩医師会館「糖尿病教室」「個別栄養相談」 講義1:「糖尿病と眼の関係について」かごしま眼科 院長 鹿兒島 武志 先生 講義2:「体重について考えましょう」三瓶栄養士 (ホームケアクリニック青梅) 栄養相談:浜中栄養士 (高木病院) 藤田栄養士 (羽村三慶病院)		
2月5日	法律相談		
6日	医療保険委員会		
12日	「糖尿病合併症を理解するための勉強会 (歯科医師)」(Web+会場聴講) 司会: 西多摩歯科医師会 副会長 大野 博文 先生 演題:「糖尿病と歯周病の関係」 演者: 西多摩歯科医師会 せぬま 歯科医院 院長 瀬沼 壽尉 先生		
19日	第23回 西多摩パネルディスカッション2026 ～失神～ 司会: 西多摩医師会 学術部長 松村 昌治 先生 【アンケート結果報告】 1)『症例1.2解説』市立青梅総合医療センター 循環器内科 部長 小野 裕一 先生 2)『症例3.4解説』公立福生病院 小児科 診療部 部長 岡本 さつき 先生 3)『症例5.6解説』公立阿伎留 医療センター 脳神経外科 医長 久米 賢 先生 【パネルディスカッション】 パネリスト 市立青梅総合医療センター 循環器内科 部長 小野 裕一 先生 公立福生病院 小児科 診療部 部長		

- 岡本 さつき 先生
公立阿伎留医療センター 脳神経外科 医長 久米 賢 先生
- 21日 西多摩地域脳卒中医療連携検討会「市民公開講座」
《講演1》
演題：「安心サポート事業について」
演者：(医社) 利定会 大久野病院 理事長 進藤 晃 先生
《講演2》
演題：「脳梗塞急性期治療 ～後遺症をふせぐためにできること～」
演者：市立青梅総合医療センター 脳神経外科 部長 脳卒中センター長 伊藤 慧 先生
- 26日 西多摩医師会館「糖尿病教室」「個別栄養相談」
講義1：「糖尿病と心臓の異常(仮)」市立青梅総合医療センター 循環器内科部長 栗原 顕 先生
講義2：「塩分について考えましよう(仮)」小松丈博栄養士(大聖病院)
栄養相談：木下栄養士(市立青梅総合医療センター) 藤田栄養士(羽村三慶病院)
- 26日 診療報酬勉強会(医師会館+Web)
司会：西多摩医師会 総務部 保険担当理事 松本 学 先生
《講演》
演題：「令和8年薬価について」
演者：沢井製薬株式会社 石川 康毅 氏

役員出張

- 1月10日 西多摩歯科医師会新年会
- 10日 東京都柔道整復師会西多摩支部新年会
- 16日 新年地区医師会長連絡協議会・懇親会
- 22日 フレイルサポート医地域連携支援事業地区医師会担当理事連絡会
- 23日 令和7年度摂食嚥下機能シンポジウム
- 26日 休日・全夜間診療事業実施対策協議会

- 29日 令和7年度第2回地区医師会・区市町村在宅療養担当者連絡会
- 31日 一般社団法人稲城市医師会法人格取得40周年記念式典・祝賀会
- 2月2日 第2回東京都地域医療構想調整会議
- 5日 西多摩地域保健医療協議会「地域医療システム化推進部会」
- 6日 地区医師会救急担当理事・東京都指定二次救急医療機関代表者合同連絡会
- 9日 西多摩地域保健医療協議会「保健福祉部会」
- 16日 多摩ブロック医師会代議員連絡会・懇親会
- 19日 第41回西多摩学校保健連絡協議会
- 20日 地区医師会長連絡協議会
- 25日 第27回西多摩保健医療圏地域災害医療連携会議(福生ブロック会議)
- 26日 救急業務連絡協議会講演会
- 27日 多摩ブロック医師会長連絡協議会～会長・副会長連絡協議会～

【新規開業】

- 氏名 青木 孝司
施設名 福生皮膚科クリニック
所在地 福生市福生1046-1 コヤマビル3階
出身校 杏林大学 平成28年3月卒

【退会会員】(準会員)

- 氏名 金木 正夫
勤務先 (医社) 和風会
多摩リハビリテーション病院

- 氏名 田中 逸人(死亡)
勤務先 公立福生病院

- 氏名 蒔苗 永
勤務先 公立福生病院

【法人代表者変更】

- (社医) 健生会 羽村相互診療所
(新) 理事長 山田 秀樹
(旧) 理事長 草島 健二

2026年度診療報酬請求書提出日一覧表

2026年度（2026年4月～2027年3月）各月の診療報酬請求書提出期限は下記の通りです。

2026年	4月8日（水）	正午まで
	5月8日（金）	//
	6月8日（月）	//
	7月8日（水）	//
	8月6日（木）	//
	9月8日（火）	//
	10月7日（水）	//
	11月6日（金）	//
	12月8日（火）	//
2027年	1月7日（木）	//
	2月8日（月）	//
	3月8日（月）	//

※ 提出期限前でもご提出いただけます。

※ 提出期限日程表は西多摩医師会ホームページにも掲載しています。

表紙のことば



『羽村のお寺さん』

一峰院の鐘楼門とも呼ばれ、春は桜が見事だそうです。

松原内科医院 松原貞一



あとがき



西多摩医師会報をご覧の皆さま、今回も最後までお目通しいただき、ありがとうございます。

今回のあとがきを担当いたしました、新町クリニックの神應です。

青梅市では「健康寿命日本一」という言葉が掲げられています。私自身、この言葉をどこまで自分の言葉として語れているのだろうか、と立ち止まって考えることがあります。現時点では、その言葉が地域の実感として十分に共有されるころまでは至っていないと感じています。これは、青梅市医師会の会長という立場にある自分自身の力不足を感じる場面でもあり、同時に、自分に何ができるのかを問い直すきっかけにもなっています。ただ一方で、だからこそ立ち止まるのではなく、小さくても現実に触れる形を探しながら、試行錯誤を続けていきたいと考えています。

また、西多摩地域全体を見渡すと、東京の中でも高齢化が進んでいる地域であり、開業医の年齢層も上がってきています。しかし見方を変えれば、今まさに地域医療の現場で活動している私たちの世代は、これまで先輩方が築いてこられた西多摩の医療の良さを直接知り、その価値を理解した上で、次の世代へとつないでいける立場にあります。過去と未来の両方を見渡せる、貴重な時期にいるのではないのでしょうか。

もしこの時期に、次につなぐ視点を持たずに日々を重ねてしまえば、西多摩の地域医療は、知らないうちに「受け取る側」から「引

き継げない側」へと変わってしまうのかもしれない。

医師会の活動は、一つひとつを見れば決して派手なものではありません。しかし、顔が見える距離感の中で、立場や専門の異なる医師が同じ地域に関わり続けていること自体が、西多摩地域の大きな強みだと感じています。日々の診療を続ける中で、将来の地域医療まで考える余裕を持ちにくい状況だからこそ、今ある良さを意識し、次につながる形を少しずつ整えていくことが、今の私たちができる確かな一歩なのだと思います。

公衆衛生の取り組みとしては、今年度、新たに「タバコフリー西多摩」の活動を開始することができました。多くの関係者の理解と協力があって、ようやく最初の一步に立てたと感じています。そして次の段階として、この取り組みの延長線上に、将来この地域を担う若い世代に対するヘルスリテラシー教育があるのではないかと考えています。私は、この点には時間がかかっても関わり続けたいと思っており、個人的にも強い関心を持って取り組んでいるところです。

もちろん、現時点ではまだ構想や問題提起の段階に過ぎません。しかし、健康について考える視点を次の世代へ手渡していくことは、地域医療を長く支えていくための大切な土台になると信じています。

私は、医師会が元気であり続けるためには、何かを新たに付け加えることよりも、関わる一人ひとりが無理なく、前向きに、この地域と関係を持ち続けられる状態を大切にすること

とが重要だと考えています。参加する人も、少し距離を置く人も、それぞれの立場で関係を持ち続けられること——そのような状態こそが、私にとっての「医師会のウェルビーイング」なのかもしれません。

広報部員として、そしてこの地域医療の一員として、私自身も考え続け、関わり続けていきたいと思います。

新町クリニック 神應知道

訃報

青梅市 (医社) 新町クリニック
院長 神應 知道 先生 御尊父様

神應 直敬 様 (享年83歳)

去る令和7年12月12日 逝去されました。
謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。

お知らせ

保険請求書類提出締切日

令和8年 4月 (3月診療分) **4月8日 (水)** 正午迄
令和8年 5月 (4月診療分) **5月8日 (金)** 正午迄
(締切日以前の提出も可能です)

法律相談

西多摩医師会顧問弁護士 堀 克巳先生による法律相談を
毎月**第2木曜日 午後2時**より実施いたします。

お気軽にご相談ください。

◎相談日 **4月9日 (木)**
5月14日 (木)

◎場 所 西多摩医師会館
◎内 容 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・
刑事に関するどのようなものでも結構です。

◎相談料 無料 (但し相談を超える場合は別途)
◎申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
(注) 先生の都合で相談日を変更することもあります。

一般社団法人 西多摩医師会

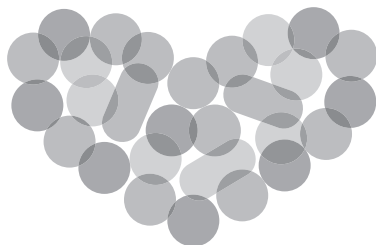
令和8年3月1日発行

会長 進藤幸雄 〒198-0042 東京都青梅市東青梅1-167-12 TEL 0428 (23) 2171・FAX 0428 (24) 1615

会報編集委員会

三ツ汐 洋 菊池 孝 奥村 充 馬場 一徳 小高 哲郎
近藤 之暢 古川 朋靖 神應 知道 中野 和広 古畑 謙

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428 (22) 3047・FAX 0428 (22) 9993



AISEI

誰もがすこやかに、笑顔でいられる毎日を。

全国400店舗以上の調剤薬局ネットワークと
業界トップクラスの医療モール開発実績



アイセイ薬局

生命の輝きをみつめ

“いつの時代も、地域医療とともに”

当社は、1966年の創業以来「正確・迅速」を目標に掲げ、地域に根ざした検査所として歩んできました。

急速に進歩している医療に貢献すべく社員一人ひとり更なる研鑽に励み、臨床検査を通じて社会に奉仕するという信念のもと、治療医学は元より、人々の本来の

で目的ある健康維持のための予防医学に傾注し、地域に根ざした検査所として努力しております。



登録衛生検査所



株式会社武蔵臨床検査所

本社：〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8

TEL:04-2964-2621/FAX:04-2964-2621

西東京営業所：〒202-0001 東京都西東京市ひばりが丘1-3-12

TEL:042-439-3663/FAX:042-439-3664

URL： <https://www.e-musashi.co.jp>

